

ひとりになっても、安心して暮らせる我孫子に

10/8 (土)

手話通訳あり・申込み不要・先着500名

無料

13:30~16:10 (開場12:30)

ふれあいホール (けやきプラザ2F) 我孫子駅南口下車 徒歩1分



第1部 (13:40~)

- ◆地域包括ケアの推進~在宅医療と介護の連携(我孫子市高齢者支援課)
- ◆市民の声「大介護の時代をどう生きる?」(高齢社会への対応を探る会)

第2部 講演 (14:30~)

人生100年!

ひとりになっても、

最期まで

自分らしく生きるには

樋口 恵子さん



【講師プロフィール】

東大文学部卒業・東大新聞研究所本科修了後、時事通信社、学研、キヤノンを経て評論活動に入る。

内閣府男女共同参画会議委員、厚生労働省社会保障審議会委員、社会保障国民会議委員、消費者庁参与などを歴任。

現在、評論家、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長、東京家政大学名誉教授、同大学女性未来研究所長、高齢社会NGO連携協議会代表

\*主な著書\*

『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』(共著2016)『介護 老いと向き合って』(2015)『自分で決める人生の終い方:最後の医療と制度の活用』(2014)『おひとりシニアのよろず人生相談』(2014)『人生100年時代への船出』(2014)『大介護時代を生きる』(2012)『私の老い構え』(2008)

超高齢社会の先端を歩む日本。医療と介護の制度改革に伴い、病院にお任せの時代から、「ときどき入院、ほぼ在宅」の時代へと移りつつあります。在宅の場合は、ひとりになっても、自分らしく最期を迎えることのできる社会環境が必要です。

施設入居の場合、特別養護老人ホームの入居条件は要介護度3以上となり、自己負担は所得や預貯金によって大幅増になりました。また、介護人材の不足、介護離職は社会問題になっています。

そんな中で安心して暮らすためには、介護も医療も見守りもみんなが連携をして取り組む地域包括ケアの体制が大切です。今回は、病気やひとり暮らしを乗り越え「人生100年時代、大介護の時代の生き方」にチャレンジしていらっしゃる樋口恵子さんにご講演をいただきます。パワフルで切れの良いお話は、きっと明日からのお役にたつことと思います。皆様のご来場をお待ちしています。